

○臨港道路について

日本と海外を結ぶ港湾は、産業貿易における海上輸送において重要な窓口となっております。

海外から船で運ばれてきた貨物は、全国へ配送するためにトラックなどの貨物自動車や鉄道で陸送されます。

三河港湾事務所管内の三河港・衣浦港にも臨港道路が整備されており、皆さんの生活を支える貨物が運ばれています。

港湾からの貨物がどれだけあるかを把握するために昨年10月21日と今年2月16日に三河港の臨港道路の1日あたりの交通量調査を実施いたしました。

その結果、多い箇所では1日、約4万台もの自動車が行き交っており、特に通勤時間の7時台に多くの自動車が行き交っていることが確認できました。さらに大型トラックと普通自動車の走っている割合として、通勤時間以外で3割から4割くらいと確認され、港湾からの貨物を輸送する貨物自動車が多いことが分りました。

このことから港と内陸を結ぶ臨港道路は非常に重要な役割を果たしていることがわかるのではないのでしょうか。



三河港 臨港道路（AM7時頃の撮影）

○三河湾で実施したシーブルー事業に関する意識調査結果

平成21年10月から11月にかけて、三河湾沿岸地域にお住まいの方を対象に、これまでに三河湾で実施したシーブルー事業に関して、事業の効果などに関する意識調査を実施しました。

シーブルー事業とは、国土交通省三河港湾事務所と愛知県（建設部、農林水産部）が連携し、海域環境を保全するため、港湾整備に伴い発生した良質な砂を干潟・浅場造成などに活用し、海の水質や底質を改善する取り組みです。

意識調査の結果、約80%の方が、三河湾の環境に関心を持っていると回答しており、三河湾の環境への関心の高さを伺うことができました。また、シーブルー事業の必要性も合わせて聞いたところ、約80%の方が「必要である」、

「どちらかという必要である」と回答をいただきました。

アンケートにご協力をいただいた方々、ありがとうございました。

詳しいアンケート結果は三河港湾事務所のホームページにアップする予定です。



三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

★ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。★

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.37)

Mini-WANとは

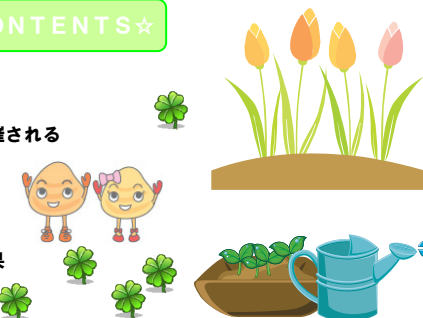
港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 平成21年度 第4回三河湾臨海部防災体制研究会
- 高潮災害にどう備えるか～地域防災シンポジウム～開催される
- 第3回 伊勢湾再生海域検討会三河湾部会開催
- 三河湾の水質及び底質について
- 臨港道路について
- 三河湾で実施したシーブルー事業に関する意識調査結果



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 平井 洋次

寒さと暖かさが繰り返しつつ、日々暖かくなってきているように感じます。それに伴って、花粉も舞っていますので、鼻がむずむずして、日々の花粉対策も大事なこの頃です。

さて、渥美半島に行く機会が毎月何回かありますが、今は菜の花の黄色があちらこちらで目に付きます。空が曇っていても、その鮮やかな黄色を見ると、季節感とか鈍いのですが、やはり新しい季節というか、新たな息吹というかを感じるものです。

そして、名古屋駅などに行きますと、華やかに着飾った卒業生の方々もありますが、新しいスーツを身に纏い、就職活動を行っている学生さんたちをよく見ます。

こちらも季節を感じるものの一つかと思いますが、就職活動も一段と厳しい様子。皆、それぞれが自分の持てる力を発揮し、目指すべき将来を勝ち取ってもらいたいものです。

最後に、春ということで、潮干狩りシーズンも到来しています。いままで、潮干狩りをやったことが無いので、今年は潮干狩りに行こうと潮見表を眺めています。なかなか、自分のスケジュールと潮汐とのタイミングが合いませんが、是非行ってみたいと思います。

もうすぐ新年度です。明るい展望が開けますように。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)
※一部の地域を除きます。

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所
〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

みなとの元氣は日本の元氣

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆

○平成21年度 第4回三河港臨海部防災体制研究会

2月25日、ポートインフォメーションセンターかもめりあ（豊橋市神野ふ頭町）において、本年度第4回目の三河港臨海部防災体制研究会が行われました。

本研究会では、これまで3年間に実施してきた取り組み内容のまとめ、明海地区をモデルケースとして企業BCP策定に向けた問題点・課題、対応方針の素案を整理しました。

地域の防災力を向上させるための手段の1つとして、臨海部を利用して復旧・復興していくことが考えられます。このためには港湾管理者や地元行政、臨海部立地企業など関係する機関の日頃からの情報・意見交換をする場が必要であり、こうしたことにより、非常時においても迅速かつ正確な情報共有が可能となると研究会でまとめられました。

今回は三河港の特定地域をモデルに検討を進めてきましたが、これを参考事例として三河港における広域的な防災力強化に向けた取り組みを広げる必要があると思います。



研究会の様子

○高潮災害にどう備えるか～地域防災シンポジウム～ 開催される

2月27日、東三河広域防災研究会主催の地域防災シンポジウムが開催されました。

初めに、同研究会の座長でもある豊橋技術科学大学・青木教授より、「これまで大規模地震が危険と言われながら、昨年10月の台風18号の高潮被害を踏まえると水害も危険という認識が強まった。これを契機にして、高潮に対する地域の防災対策を充実させるために、どうすれば良いのか考える機会としたい」とのシンポジウム開催の説明がありました。

シンポジウムでは、港湾空港技術研究所海象情報研究チーム・河合リーダー、愛知県三河港務所・柴田所長、豊橋技術科学大学・青木教授、防災科学技術研究所・村上研究員から、今回の高潮災害に関しての報告がありました。

その後、「明海地区事業継続計画（BCP）」の提案者である明海地区自治会「明海地区防災連絡協議会」浅田会長（株）デンソー豊橋製作所所長）と報告者によるパネルディスカッションが行われました。

浅田氏からは「災害時は行政とのネットワークが重要」、河合リーダーからは「三河湾内では1m

程度の高潮偏差が度々おこっており、偏差と潮位の変化について良く理解しておく事が重要」との指摘がありました。

また、会場参加者からも「企業として、どのレベルでリスクマネジメントを考えれば良いのか」等、パネリストに対する質問が多数出され、「地域防災力をいかに向上させるべきか」を参加者全員が考える機会となりました。



シンポジウムの様子

○第3回 伊勢湾再生海域検討会三河湾部会開催

3月3日、第3回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会（事務局：三河港湾事務所）を開催しました。

三河湾部会においては、伊勢湾再生海域推進プログラム（平成20年3月）に位置づけられた「多様な生物がいきづくうみの保全」に向け、三河湾において大きな懸念材料である「貧酸素水塊」の抑制に効果が期待できる方策等について検討を進めるものです。

中田部会長（東海大学海洋学部教授）の議事進行のもと「貧酸素水塊抑制の方策（干潟浅場造成、深掘跡修復）の効果の検討結果」に関する活発な意見・議論が交わされました。委員の方から、国、県等部局の縦割りを排して一刻も早く三河湾を修復することを望むとのご意見を頂きました。

今後、今回の議論を踏まえ、次回開催までに検討をさらに具体化する予定です。



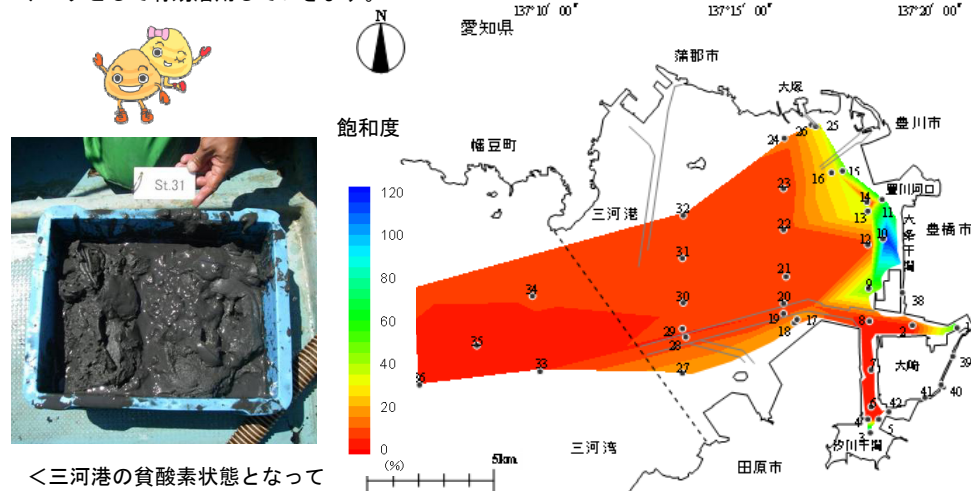
三河湾部会の様子

○三河湾の水質及び底質について

三河港湾事務所では、三河港内を中心とした範囲で、水質・底質の環境状況を把握するため、平成21年7月から12月にかけて溶存酸素（DO）、硫化物濃度等の調査を実施しました。

調査結果から、昨年7月から9月にかけて貧酸素水塊が発生したことがわかりましたが、それでも六条潟や汐川干潟においては良好な溶存酸素（DO）を確保しており、干潟では生物生息環境が保たれていることが確認できました。また、三河港の貧酸素状態となっている地点の海底の泥を採取（写真参照）しましたが、色は黒く「ツーン」とした硫黄臭が漂い、過剰な有機物等の沈殿・堆積による汚染された泥ということがわかりました。

今後、三河港内等における各種環境改善対策を実施していく上で基礎的なデータとして有効活用していきます。



<三河港の貧酸素状態となっている地点の海底の泥の様子>